

植物多様性センターの「コシオガマの一生」

昨年、都立小山内裏公園から種子を譲り受け育てた、コシオガマが開花しました。コシオガマは、ハマウツボ科の半寄生性の一年草です。種子は、同じ科のナンバンギセルに似て長径が1mmと微小で、表面にヒダ状の隆起があります。乾いた北風で遠くに運ばれ、宿主の根元で発芽を待つのが共通の戦略のようです。東京都では、自生地での草原の開発や遷移が進むことで、絶滅危惧種となっています。



種子採取：開花後しばらくして先のとがった蒴果が熟す



発芽：採り播き後、冬を越して早春から徐々に発芽し始める



植替え：宿主植物とされるイネ科(コブナグサ)と混植する



開花：明るいピンク色の唇形花を下から順に葉腋に咲かせる